



この景色の中に いられることが 便利より、なにより かえがたいこと

青木農園

青木 栄一さん 移住先／山梨市牧丘町

「この緑がある景色ですね。その緑の大部分が、ぶどうで、その緑の下にはぶどうがなっていて、そこに季節感があって、それが一面に広がっているという…。この景色の中にいられる、つてことが、横浜から移住して一番良かったって思うことです」。青木さんが、まず語ったのは、ぶどう畑の風景のことだった。

ご両親と共に新天地での暮らしをスタートさせ7年。ぶどう栽培は6シーズン目を迎えた。ここまで、青木さんは、移住の条件となる新居や畑、新規就農の協力者となるさまざまな人との縁に恵まれてきた。

山梨県の中でも「牧丘の巨峰」と言えば特別。最高級、プレミアムを意味する。南向き斜面、日夜の寒暖差が生む漆黒の果皮に包まれた実は、驚くほど濃く深い。今や日本一の巨峰の里となったこの土地と、青木さんの人生が重なった。

青木さんは、ご両親と八百屋を営んでいたが、近くに大手スーパーが進出。「人がつくったものを市

やまなし暮らし支援センター

専門相談員が常駐し、山梨への移住や就職をお手伝い。就職・住宅情報をワンストップで提供。移住に関する相談会、セミナーなど各種イベントも開催しています。

■甲斐適生活相談会

富士の国やまなし移住・交流推進協議会の会員が、住宅・不動産などの情報を移住・二地域居住希望者に提供。個別相談会もあります。

12/6(日)……………横浜市技能文化会館2階(横浜市中区万代町)
1/23(土)・24(日)………移住・交流情報ガーデン(東京都中央区八重洲)
2/28(日)……………東京交通会館12階(東京都千代田区有楽町)

■やまなし暮らしセミナー

毎回1つのテーマを取り上げ、市町村の紹介、移住者による体験談の発表、個別相談会などを行います。

1/17(日)・2/13(土)……やまなし暮らし支援センター

東京都千代田区有楽町2-10-1東京交通会館5階

TEL.03-6273-4306 FAX.03-6273-4307

E-mail:yamanashi@furusatokaiki.net

開設時間：火～日曜日 10:00～18:00

やまなし暮らし 検索



1968年生まれ。2008年に山梨市牧丘町に移住。山梨県立農業大学校で農業経営の職業訓練を受けた後、県や農協の支援制度を積極的に利用。さらに近隣農家からのサポートを受けながら、ぶどう栽培をはじめた。消防団、青年部、地域の行事、コーラスグループなど、「来てみろし」と声が掛ければ、なんでも参加する。



場で仕入れて売っている限り、価格競争しかない、という厳しい現実がありました」。

もし自分たちでつくれたら、より自分たちらしい商いの仕方ができるのではないかと。そんな青木さんの頭にあつたのが、時折訪ねていた山梨のぶどう畑の風景だった。あの場所なら「充実した時間」が過ごせるのではないかと…。

一方、牧丘は、ほんの半世紀ほど前まで、山里一面にぶどう畑ではなく、桑畑が広がっていた。戦後、日本中の山里を襲った養蚕業の衰退という危機の中で、牧丘の人たちは、地の利を生かした果樹栽培へ、大きくかじを切る。青木さんの心を捉えたぶどう畑の風景も、最高級の称号も、農家さん一軒一軒と関係団体とが一丸となって、半世紀をかけたつくり上げてきたものだった。

ここでは、みんなが同じ方向を向いて生きている。地域の人の面倒見の良さも、都会的な関係性の中で商いをしてきた青木さんからしたら、今でも、戸惑うほど。

「やっぱり、ぶどうの産地ということが大きいんだと思います。ぶどうづくりに、それぞれが励んで、みんなで底上げしながら、市場に良いものを出して、産地形成をしていくってことなんだと思います」。

そんな共同体としての地域のあり方が残る土地で、農家の先輩からはじめて、「青木」と呼び捨てしてもらった時はうれしかったそうだ。

最後に青木さんは、「山梨の魅力って、ぶどうや桃って言われますけど、人だって思いますね」と朗らかに笑った。